

3. 参加者との意見交換

【フルーツトマトの生産、県内野菜のアピール、南海地震対策について】

A： 私の会社では8年前からフルーツトマトを作り始めています。フルーツトマトは、高知を代表する作物だと考えております。生産量は日本で7位とあまり高くない順位ですが、生産者の割合が多く、トマトのレベルが高いと聞いています。このフルーツトマトを作り、県外に出すことで、高知県のアピールになると考えています。

自社で作っているフルーツトマトを使って、トマトジュースも作り、5年前から販売しています。また県内の企業と一緒にトマトケチャップも開発しました。これは県内企業と連携して商品を作っていく、相互の利益を高めていく地産地消につながっています。

3月に起こった東日本大震災の復興支援のために、高知県内のトマト農家を集めたトマトサミットというイベントがあり、東京にある高知県のアンテナショップ「まるごと高知」でトマトの販売をしました。その際、トマトの認知度も高く、たくさんのお客様に来ていただき、やはり農業は大事で素晴らしい職業だとわかりました。それを踏まえたうえで、私の農場は海に近い春野町にあり、そのため、地域の課題として、地震対策、特に大津波対策がどのようになっているのかをお聞きしたいと思っています。

今後の取り組みとして、県外の方たちへの県内産野菜のアピールについてですが、具体的には交通機関の中での野菜の試食販売をやってみたらどうかと考えています。例えば、高知県に来る電車の中で各駅での特産品を試食という形で、お客様に無料で召し上がっていただくという形をとれないかと考えています。電車に乗った時点から高知県の野菜をアピールする、高知県の雰囲気を感じていただくというアイデアです。

知事： トマトサミットの話は、ツイッターでも話題になっていました。大好評だったみたいですね。トマトの専門店をされている方からも好評だったということで、今回つくづく思ったのは、高知県のトマトの品質の高さです。トマトサミットのような取り組みは、トマト自体の売り込みにもなるし、高知のような力のある産地にとってみれば、全国的な発信力を持つことにもつながるすごくいい話ですね。

また地元企業とタイアップしてケチャップの加工をしているという話ですが、食品加工の分野には期待感が非常にあって、もっと増やしていけないかというのが、産業振興計画でも大きな柱になっています。実は、高知県ぐらい食品の加工をやっていない県はないそうです。分母に農業算出額をとって分子に食品製造業出荷額をとると、この比率が全国46番だそうです。それだけ素材がいいということでしょうが、他の県もだんだん同じような技術を持ってくるという状況の中で、今後、県内で加工して付加価値を付け、さらに遠くまで運んで、売り込むかたちが必要になってくると思います。Aさんの取り組みは、県内をリードしておられる取り組みだと思うので、是非頑張ってくださいと思います。

津波対策については、国の復興対策でも同じような考え方が取られていますが、やはり多重防御ということになります。1点で全て守りきろうとしても、大津波の場合、なかなか

か守りきることはできない。1つの堤防で全て守るということは必ずしもできないので、複数のハードを組み合わせて、少しずつ津波の力を弱めていくということを考える。具体的には、全ての津波の高さに対応できるような堤防を作ろうとしたら、堤防の陰で人々が暮らさないといけないうらいの高さになってしまうので、その代わりに、崩れ落ちないでいつまでも津波のパワーをそぎ続けることのできる施設を複数箇所作っていくことが必要だと思っています。

もう1つは、ハードだけではどうしてもまかないきれない課題ができてくるので、ソフト面での対応を強化する必要があると思います。確実に人の命は助かるようにするという対応が重要だと思うので、堤防を越えて津波がやってきても、そこから逃げることのできる施設をしっかりと整備しておくことが非常に重要だと思っています。津波避難タワーとか津波避難路づくりを県内全域で進めたいと思っています。その前提としての津波避難計画づくりをしっかりとしておくことが重要だと思っています。

この2つの組み合わせでやっていくと思うのですが、ハード整備というのはどうしてもお金もかかり、時間がかかるので、間に合わなくなるかもしれない。まず津波避難計画をつくって確実に逃げられる、命はせめて助かるという体制を県内、沿岸部につくっていく対策が重要だと思っています。

沿岸部の全市町村で津波避難計画を今年度中に作り、さらには自主防災組織を沿岸部全てで作って100%にし、(その市町村の中の)地域地域での津波避難計画づくりに今年度中に着手をしていただくという取り組みを行っていこうと考えているところです。もう既に避難計画もできていて、土地も確保されている所では、津波避難タワーや避難路づくりを始めていますが、まだまだ計画ができていない所があったりするので、逃げ方の計画をしていただき、避難タワーを作るとか、避難路を作る等を是非進めていきたいと思っています。

また沿岸の農地の被害を考えると、高台移転の話が出てきますが、これについては、津波に被災するリスクを考えて農地を全部高台に移すとなると、今度は農地として成り立たなくなる。だから、分散してやっていくという対応で、耕作放棄地等を利用していただく。そのために農業公社の情報提供システムを活用していただきたいと思っています。併せて被災した後はどうやって復興していくかについての研究が急速に進んでいます。例えば除塩などです。今、東北で一生懸命やっておられますが、ああいった事例を我々も一生懸命研究しないといけないと思います。あれだけの大津波が来た時には、完全に全ての農地を守りきることはできないと思いますが、(農地を)分散していく対応や、できるだけ早く復旧できるような体制を研究していく中で、その事前準備をしていくこと、そしてもう1つは、何とんでも、命は絶対助かるようにすること、今回の震災を踏まえて、これら一連の対策を大いに加速をしていこうと考えています。

A : 先ほど言われた津波の対策として、多重防御という話がありましたが、防ぐのではなくて、波の力をそらすというのはできないのでしょうか。

知事： うかつにそらすと別の所に大きな被害が及んだりして難しいところがありますが、例えば、人工リーフ（消波用の暗礁）を置いて波の力を減殺し、また堤防が倒れないようにしておいて、力をずっと削ぎ続ける。さらに高速道路が最終的に防御ラインとなって、そこで津波を止めるようにする等、そんな形で施設を作っていくやり方があるようです。

今回の6月の補正予算で計上させていただきましたが、海岸堤防と河川の堤防で津波に関係するような所について耐震化調査を今年度中に行なっていきたいと思っています。特に液状化で倒れてしまって、堤防の役を果たさなくなるかもしれない所は、耐震補強を加速的に行なっていくような仕組みをやらうと考えています

また交通機関の中で地場産品の試食を行うという話は、いいアイデアだと思うんですが、JRにも問い合わせたところ、車内販売は（試食品を）こぼしてしまってお客様に付いたりするということもあったりするので、なかなか厳しいそうです。限られた区間だけでやったりされているそうです。だけど、交通機関の中ではなく、降りてきて駅に到着された段階でという方法もあると思います。（高知駅前の観光情報発信館の）「とさてらす」でいろんなコーナーを設けて試食販売をやっていたり、売り込みをやったりもしていますが、そういった取り組みも是非使っていただければなと思います。

現時点では交通機関は難しいですが、今後アイデアとして生かさせていただきたいと思っています。実はその発想で今やっているのは、JRの特急列車「南風」の座席の前に、「志国高知・龍馬ふるさと博」というステッカーを貼って、乗っている間、目の前に「ふるさと博」の三志士像がズラッと並んだステッカーがあって、頭の中に「ふるさと博」を印象付けようというPRで、JR四国さんにご協力いただいてやり始めたんです。高知を楽しみにしてくれている間、ずっと目の前に中心となる商品があれば、そこに行こうと思ってくださるという狙いです。駅前に行くと、実は一番入ってもらいたいのは「とさてらす」で、そこに入ってもらうことで県内各地の情報を知ってもらいたいので、「とさてらす」に入るための人を集めるのが「ふるさと博」のパビリオンの役割だと思っています。

いただいたアイデアを生かさせていただきますが、また、「とさてらす」も、仲間の方々と利用してください。